

平成28年度 第1回 三種町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 平成28年9月20日（火）午後1時30分
- 2 開催場所 琴丘地域拠点センター 小会議室
- 3 出席者 三種町長 三浦 正隆
三種町教育委員会 委員長 堀田 キミ子
教育長 鎌田 義人
委 員 嶋田 博光
委 員 水野 京子
委 員 佐々木 孝一
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 総務課長 木村 信悦 課長補佐 石井 靖紀
教育次長 畠山 広栄 次長補佐 後藤 誠
主席主査 成田 直広
- 6 傍聴者 1名
- 7 内 容 下記のとおり

午後1時30分開会

木村課長 おつかれさまです。本日はお忙しい中会議にご出席下さいましてありがとうございます。

それでは、第1回三種町総合教育会議を開催させていただきます。始めに、町長よりご挨拶をお願いいたします。

三浦町長 皆さんご苦労さまです。台風16号が近づいて来ておりますが、九州、四国、和歌山県など大きな被害にならないかと思います。少し前の予報では秋田県を通過する予定でしたが、今日の予報では太平洋側に抜けるようです。

学校関係では、中学校の新人戦が終了し、日曜日は各地区で反省会が賑やかに開催されたことと思います。

委員の皆様には、お忙しいところご出席していただきまして、

ありがとうございます。今日は、学校の再編が主な議題になると思いますが、それに限らず色々な話題を出していただければと思います。

これまで、町としましては、施設整備にだいぶ力を入れてきました。特に、東日本大震災以降は耐震化を進めまして、全ての小中学校の工事が完了しました。

また、学校で1日の大半の時間を過ごす児童生徒が、楽しく学校生活を過ごせるように、特に、私は幼少期にトイレが怖くて使えないという経験がありましたが、児童生徒の皆さんがトイレを我慢するといったことのないよう、快適な環境を目指して整備を進めています。今の公共施設のトイレは、空港やホテル並みが標準になっておりまして、課長会議等でもいつも話しております。

学校の施設も、殆どウォシュレットのトイレになりました。和式トイレもまだ若干ありますが、学校の施設環境はだいぶ整備されたと思います。

次は、ソフト面についてであります。新たにALT2人を招致しまして、3地区1名ずつの3名体制でおそらく9月か10月頃から本格的に活動できるものと思います。子ども達が外国人と接する機会というのは少ないですから、また、外国語というのは、新しい世界に接することでもありますので、自分が伝えたかった、伝えきれなかったという経験も必ずモチベーションとなって、外国語だけでなく子ども達の色々な経験として生きてくるものと思います。

最近では、台湾南投県との調印式がありました。私も北京語の勉強を少し始めましたが、そういう時代になってくるのだと思います。

ハード面、ソフト面それぞれにおいて、学校環境の充実を図っておりますが、まだまだ足りないと思っています。将来の三種町を担う人材育成のためには、子ども達の教育が非常に大切だと思っています。

本題に入りますが、過去2回ほど学校整備配置計画について討論されましたが、結果的には結論を先送りしたような形になっています。簡単には決められない状況にあります。地域性や住民感

情もあります。これまでの委員の方は、だいぶご苦労されて方針を作られたものと思いますが、ここにきて近隣の状況を見ると、八峰町は一昨年方針を決めて4月から動きだし、藤里町は小中一貫校で行くのか、義務教育学校で行くのかといった状況でもあります。能代市でもおそらく今年中に最終的な案を出されるのかなと思っております。

本町もそろそろ結論を出す時期に来たのかな、と言いますのも、合併特例債の期限が平成27年から5年延びて、平成32年まで利用できます。仮に校舎を造るとしても32年までという期限があります。合併特例債といっても、これはあくまでも借金でありますので、確かに有利な財源ではありますが、借金が増えることに変わりはありません。

6、7月に各地区の旧小学校単位の8カ所で自治会長会議がありました。会議の最後には、教育長からある程度の学校の配置計画について説明していただき、自治会の皆さんから色々なご意見もいただいております。

今後は、町としてもある程度の結論を出していきたいと思います。教育委員の皆様には大変ご難儀をお掛けしますが、教育委員会の会議の中で1つ議論をしていただきたいと思います。以上、よろしく願いいたしまして開会の挨拶とします。

木村課長 ありがとうございました。続きまして、教育委員長よりご挨拶をお願いします。

堀田委員長 皆さんこんにちは。

今年はとても暑い夏で、私にとっては非常に大変な夏でありました。

町当局におかれましては、色々な事があって、対応にご苦労された面もありますけれども、学校環境については、これまで色々整備していただいて、子ども達も順調に2学期をスタートしております。本当にありがとうございます。

本町の学校の在り方については、ある程度結論を導き出す時期に来ているのかと思っています。町にとって、子ども達にとっても、良い方向に持って行ければと願っていますので、よろしくお願いします。

8月26日に秋田市で教育長と市町村教育連合会の会議があり、文科省の職員が来て色々とお話しされた中に、非常時の学校と町との連携がスムーズに行かなくて困ったという熊本県の事例がありました。

最近また、大水、台風など災害が起きていますが、そのようなことも想定して、ある程度、防災について話し合って連携を深めていければと思います。例えば、下岩川小学校の例で言うと、大水が来れば学校が使えない、連絡も取れない、行く方法も無くなるという地域もありますので、それらを含めていつかは話し合っておけたら良いのかなと思います。

今日は、色々良い方向に行くように、よろしくお願いします。
木村課長 ありがとうございました。それでは、以後の議事進行については、町長をお願いします。

三浦町長 はい。次第の4番に入ります。議事録署名委員の指名ですが、嶋田委員をお願いします。

嶋田委員 はい。

三浦町長 それでは協議事項に入ります。

（1）学校の再編について。

それでは、資料について事務局より説明をお願いします。

成田主席主査 （資料を基に説明）

1枚目の「三種町立小中学校の再編について」は、再編についてのこれまでの経過と今後の予定について記載しております。

先ほど町長からもお話しありました、第1回、第2回の検討委員会から今後の予定を記載しています。

学校再編検討委員会の諮問についてと、これからの予定として記載してあります。

次の頁ですが、「三種町小・中学校の建設年・構造及び規模状況」ということで、これまでの施設の整備について記載しております。

次の頁は、「年度別児童生徒数・学級数調べ（平成28年度～平成34年度）」。平成28年度は現在の人数ですが、それ以降の29年度から32年度まではシミュレーションした数値です。

次の頁ですが、「三種町立小中学校年度別児童生徒数（平成18年度～平成27年度）」。これは平成18年度から平成27年度ま

での実際の数字になっております。

次の頁ですが、「平成２８年度小・中学校学級編成基準」。この表に則って単式学級、複式学級が編成されております。

次の頁ですが、当時の教育委員会から出された「三種町立学校の再編整備」についての諮問内容となっております。

次の頁ですが、平成２５年３月１９日に出されました「三種町立学校の在り方の検討について」の諮問内容となっております。

最後になりますが、平成２０年２月２６日の答申中、学校統廃合について述べている部分の抜粋となっております。

三浦町長 もう少し詳しい内容説明をお願いします。

成田主席主査 はい。最初の「三種町立小中学校の再編について」ですが、平成１９年６月５日に学校再編整備検討委員会へ当時の教育委員会から最初の諮問をしております。

その学校再編整備検討委員会で、１年かけて平成２０年２月２６日に三種町立学校の再編整備計画の基となる答申を出しています。それを基に、教育委員会が三種町立学校の再編計画を作成しています。その時の内容については、２０年の答申の中で『児童数の減少が著しい地域に関しては、早急に対応すべきであり、琴丘地域に関しては平成２１年度を目途にして、小学校の統合を達成したい。』ということを具体的に内容として挙げてあります。

次の頁の中学校については、再編計画書の中で『２６年度以降が適切である。』とこのような内容で記載されてはいるのですが、小学校のように具体的な地区や地域については謳ってはいません。それから現在に至っております。そして、平成２５年３月１９日に２回目の三種町学校検討委員会に諮問したのですが、平成２６年２月２４日出した答申の内容については、『今後も平成２０年に策定した三種町立学校再編整備計画書を基にしながら対応されるものを望むものです。』ということで終わっています。

そして、平成２７年２月４日に文科省から、小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引の策定通知が来ております。

まず、５０年ぶりの全面改定ということで、これからの少子化、小規模校に関する学校運営ということで追記されたものが来ております。

そして、今後の予定ですが、平成28年8月16日、先回の定例教育委員会に於きまして、学校再編検討委員会を立ち上げて、今後の学校の再編について諮問するということを決めてあります。委員構成についてもおおよそ決めまして、委員数24名のうち、一般公募3名、各校PTA役員9名、保育園関係者3名、小学校所在地の自治会長6名、学識経験者3名としまして、その報酬を補正予算で計上しております。

本日の総合教育会議で、小・中学校の再編について、町長のお考えを聞いた後で、この後の定例会で諮問内容についてお諮りする予定です。今後、学校再編検討委員会委員の選定と委嘱をし、10月の中旬から下旬にかけて第1回目を開催する予定です。以降、3回開催いたしまして、平成29年の1月中旬から下旬あたりで答申内容をまとめていただき、平成29年2月上旬には検討委員会から教育委員会へ答申をあげていただくという予定です。そして、2月の中旬には総合教育会議で学校の再編についての方方向性を決定し、3月の議会定例会へ報告します。また、4月には広報等で町民に周知する予定となっております。

三浦町長 最初の検討委員会では、琴丘地区の3小学校を統合することになりまして、鹿渡小学校を中心として、鯉川小学校、上岩川小学校が一緒になり、琴丘小学校が誕生しています。

中学校については2段階で、まずは第1段階で25年度までに琴丘中学校と山本中学校が合併の予定でしたね、もう過ぎたのですが。

鎌田教育長 はい、そのとおりです。琴丘中学校が雨漏りして。

三浦町長 第2段として、平成26年度以降に、残る八竜中学校が一緒になる予定になっていたのですが、これは震災の関係で施設が整備されてきたので、そこまでやらなかったということでしたね。

平成25年度の三種町学校検討委員会の答申書はありませんか。

成田主席主査 はい、あります。只今準備いたします。

三種町長 暫時休憩します。
(休憩)

三浦町長 お手元に答申書が配布されたと思います。

最後の方に『平成21年度に琴丘地区の小学校を統合し、子ど

も達への効果が出ており、今後も平成20年度に策定した三種町立学校再編整備計画書を基にしながら対応されることを望むものであります。』となっています。これだけ難しいことです。

鎌田教育長 自治会長会議でも、あまり遅くならずに進められないのかという意見がかなりありました。慎重に慎重にと、いつまで慎重にやっているのかという意見がありました。

三浦町長 山本地区でした。

鎌田教育長 上の方からどんどん進めればいいのか、という意見もありました。しかし、私達は民意を尊重して、丁寧に時間を掛けてやるとお話ししても、なかなか解ってもらえませんでした。それだけ難しいことだと思います。

堀田委員長 百何十年という歴史を持っている学校ですから、そう簡単には。

三浦町長 これまでのところで、皆さんからご意見等ございましたらお願いします。

水野委員 三種町立学校の再編整備計画に、25年度以前で中学校2校を統合し、第2段階は26年度以降に中学校を1校に、と書かれておりますが、これはどれくらい重みのあるものなのですか。

三浦町長 平成20年の答申を尊重しなさいということで、無視する訳にはいけないと思います。

鎌田教育長 中学校は26年度で統合が終わってなければならない。しかし、震災の影響で、学校は耐震工事を急げという事情があり、琴丘中は大規模改修、耐震補強をしている。そうして続いていっている訳です。

小学校は、鯉川小学校と上岩川小が、19年に地域から統合をお願いしたいという声が上がリ、それほど大きな問題も無く、琴丘小学校が開校したと思います。2回目の答申書が出たときは、下岩川小学校で複式学級が多く発生して、そして諮問したのですが、文科省の手引きなるものが59年ぶりに出されて、そこでちょっと足踏みしている状態です。

アンケートの集計結果から、再編へのご意見が60%位あります。その中でも、時間を掛けて丁寧にやるべきという意見もありましたので、議会に委員報酬を上程した際に、今後、検討委員会を立ち上げて、どこを再編するのか、また、いつ頃なのか、どん

な形が良いのか検討していくという説明をしています。

そして、旧3町に学校を置いて欲しいという声もかなりあります。20年は、旧町に小学校は1つ、中学校は1つという考えでしたが、中学校も一緒に出来ないかという声もあり、そうすれば小中ということで、井川町の例も参考にしているようですが、いずれにしろ、私は時間を掛けてやらなければならないことだと思います。

三浦町長 南秋の方は、井川町に次いで八郎潟町も小中一貫校をやるのですか。

鎌田教育長 八郎潟町の場合は、中学校に小学校が併設されるようです。

堀田委員長 本町の場合は、併設となれば造り替えの必要はありませんか。

鎌田教育長 中学校に小学校が入るのか、小学校に中学校に入るのかわかりませんが、階段の高さが違いますので改築が必要です。

畠山次長 学校法でいくと、小学校と中学校の階段の高さが違うので、階段を整備しないとはいけません。小中別々の階段を造らなければなりません。

鎌田教育長 常盤小中は、小学校に合わせています。中学校に小学校が入るとすると、小学校に合わせて造らなければなりません。

堀田委員長 規制がある訳ですね。

三浦町長 階段の問題ですね。他にはありませんか。

畠山次長 もっと出てくると思います。教室の広さとか、トイレとか。

堀田委員長 大規模改修をしているから工事は要らないのかなと思いました。

三浦町長 仮に、中学校の中に小学校が入るとしたら、1番上の階が中学生でしょうから、1階と2階の部分を造り替えるのでしょうか。

鎌田教育長 造り方が問題になります。活用の仕方とか。

三浦町長 北側校舎、南側校舎とか。2年前に市町村職員の研修に参加してきましたが、ヘルシンキ市内の小中一貫校が大変良くできていると思いました。特に感心したのは、チャイムがなくても、きちんと時間を守る、科目別の授業に整然と移っていたし、上級生が下級生のいじめ等もしっかり注意する。学級も20人位で、先生方が良く目配りできていて、給食のときは、広いランチルームで整然と低学年から来て食べていました。

嶋田委員 20人位の学級だと、かなり目配りができますね。

- 堀田委員長 三種町は、一緒になっても1クラスですね。
- 鎌田教育長 山本地区、八竜地区が一緒になっても、小中学校とも全部1クラスです。ノーチャイムスクールは、授業時間も違っているからです。
- 三浦町長 それから、特別支援学級にも配慮していました。障害のある児童生徒も、間近で特別違和感なく接していたようでした。
- 中学校についてですが、仮に、町の真ん中、じゅんさいの館辺りに建てるとしたら、通うのは大変ではないかと思います。いくらスクールバスを走らせても、上岩川、追泊地区は、自転車を通えるような距離ではないですよ。十何キロですよ。
- 鎌田教育長 八峰町で統合が始まってまだ1年になりませんが、岩館から峰浜まで20キロ位あります。危惧している人に聞いたら、朝学校に来ると、疲れてすぐ学習に取り掛かれないような話しをしていました。小さいバスで岩館から直行で来ると時間が掛かりませんが、大きいバスで、途中何人も乗せてきますので時間が掛かります。今後は、小さいバスで真っ直ぐ来るようにしなければならないということでした。
- うちの町も、追泊とか三倉鼻、上・下岩川から来るとなると結構な距離になると思います。
- 佐々木委員 スクールバスも相当な台数になるでしょうね。まして小型のバスにしたら尚更です。そして、40分も50分ですよ。保護者の負担も増えると思います。朝はいいとして、部活動後の迎えなど、何かあれば保護者の負担は大きいと思います。
- 嶋田委員 先ほど水野委員がお話しされた、中学校が1校という考えは、継続しているものですか。
- 鎌田教育長 アンケートでは、1校で良いと考えている人もいます。
- 三浦町長 部活動とかの面ですか。
- 堀田委員長 もう既に、部活も一緒にやられていますよね。
- 佐々木委員 中学校も合同チームなどを考えていかなければならないですね。
- 鎌田教育長 今回の新人戦は、琴丘中学校の野球部が9人に達しなかったの
で、峰浜中学校から部員を借りて試合に臨みました。ただ、借りられてくる部員は納得しないでしょうね。現に大仙市辺りは距離が離れているのであまり統合しませんが、近くの中学校と一緒に

なって部活動をしているようです。

堀田委員長 小学校はもうそうになっていますね。

鎌田教育長 小学校はスポ少ですから。

三浦町長 良い例が下岩川ゴールデンヒルズです。

鎌田教育長 野球も八竜地区が一緒になっています。山本地区も3小が一緒になってチームを作っています。

堀田委員長 女子が多いですね。女子と男子のバランスがうまくとれていないのですよね。

鎌田教育長 小学校は、今日の新聞で四小が優勝したと書かれていましたが、じつは浅内小学校の児童も含まれています。小学校もそういうケースがありますが、中学校でも去年、能代市のソフトボールが3校一緒になって全国大会まで行っています。

堀田委員長 日々の学習になれば、一緒にやるというふうには。

佐々木委員 中学校ともなれば、部活動がウエイトを占めますよね。野球とかバスケットボールにしてもそうですね。また、他の競技があっても、なかなか部活として成立しないということがあると思います。それが2校だけでなく3校合同となれば、いろんな方法が出てくるのだと思います。

三浦町長 かつて八竜中学校では、柔道部の部員がたくさんいましたが、今は2人です。団体戦は3人以上いないと戦えませんね。

嶋田委員 山本中は、相撲部が廃部となっています。剣道は一生懸命やっていましたね。

鎌田教育長 部活に関しては、社会教育に移行し、バドミントンをやりたい人はバドミントンを、体操をやりたい人は能代のサンフルトに行ったり、レスリングをやりたい人は八郎潟町に行ったりしている。そういう子ども達がたくさんいます。

三浦町長 昔は、部活のチームが出来ないから統合という意見もありましたが、今は合同チームでもいいのではという考えも出てきていますね。

鎌田教育 中体連も、以前はそういうことに力を入れていませんでしたが、今はそういう子ども達を救ってあげようというふうになっています。

三浦町長 高校でもそうですね。

嶋田委員 学校再編は避けては通れない問題ですが、ただ、学校が無くなったために上岩川などは地域が寂れている。この答申によると、下岩川、金岡が森岳に集まってくるということで、地域の人達の声が心配です。再編に反対するのではなく、その後をどうするか考えないといけない。

堀田委員長 例えば、山本地区の場合を考えた場合に、下岩川の人も金岡の人も森岳と一緒にあって学校を支えていく、そういう心構えを持ってやってくれるのでないかなと思います。そう願ってやるしかないと思います。ただ以前、県の研修会で、統合の課題は何かというと、子ども達はすぐに一緒にいるが、地域の感情がなかなか溶け合わない、そういうお話をされた方がいました。地域の壁を崩すのが大変だということが話題になっておりました。

三浦町長 なかなか大変ですね。

堀田委員長 スポ少で一緒になっているところを見ると、案外仲良くいくのではないかなと思っています。我々大人だけが心配していても、案外子ども達が仲良くしていると保護者も仲良くなるし、おじいさん、おばあさん達も地域の学校だから頑張れということになると思います。

嶋田委員長 そうなっていかなければならないと思います。

水野委員 親が学校に関わることは本当に減っているので、子ども本位ですよね。

佐々木委員 成功例として、琴丘小学校があります。鹿渡、鯉川、上岩川地区が短期間で一緒になっても、特に不満も無かった。アンケートの中に「子どもが5年間複式学級でした、本当は6年生の時だけでも複式でなければ良かった。」という意見もありました。

今言われたように、地域が寂れるということもありますが、それは地域振興として別に考えていかなければならない。

確かに人数が多くなればなったということで問題になることもあるし、逆に少人数で複式になったとすれば、そのデメリットも当然あることです。今後、人数が飛躍的に増えていくなれば別として、段々減っていくことを考えると、やはり地域の皆さんが変わらないといけないのかなと思います。子どもは簡単に変わるとは思います。

堀田委員長 学校は子どもの世界なので、子ども達も柔軟性を持って変わっていくと思うし、大人の考えでなく、子どものことを第1に考えていかなければならないのかなと思います。

嶋田委員 色々な心配がこれからあるのですが、再編は人数的にも、どうしてもしなければならない。町の人口そのものが減少していくのですから。

三浦町長 そうですね、減少していきますね。八郎潟町で小学校と中学校が併設するとありましたが、建物はどれ位の規模ですか。

鎌田教育長 規模については分かりませんが、中学校はまだ新しくて小学校は古いものですから、中学校の隣に整備されるようです。井川町は中学校の校舎に小学校を増設しています。大潟村は平屋で両側にあります。

三浦町長 大潟村も既にそうですか。

堀田委員長 小坂町もそうですよね。

鎌田教育長 小坂町も。この辺では上小阿仁村もそうです。小中学校は何人もいません。今から12年前、常盤小中学校が建てられています。そのとき視察に来た八郎潟町、井川町、大潟村、皆瀬村、上小阿仁村、小坂町が十何年掛かって今出来ています。

あの頃、能代は画期的でした。小中学校が一緒に、公民館、図書館、支所も入っています。いずれ、そういうことを見越して、このような機能を持つ建物がこの地域になければならないということで建てられました。常盤中は、東雲中と統合する話があり、常盤地区の人達の反対に遭い、秋田県で初めて建てられました。太陽光発電も整備されて、本当に最先端の学校でした。

堀田委員長 それが今、あんなに人数が減ってしまったのですね。

鎌田教育長 人数が居なくなってしまったし、10年経てば世の中は変わります。昔のように50年もつとか、そういう考えは、今は無いと思います。10年もてば良いと思います。

堀田委員長 通学距離の問題として、三種町に1校の中学校というのは無理でないかと思います。孫が八森にいて、通うのに時間が掛かるので、すごく心配です。通学距離が長く、疲れるのではないかと。

三浦町長 学校に行くのが嫌になれば、それも困りますね。

堀田委員長 中学校は、旧町単位に1つ残してくれればいいと思います。通

学問題も解消されるし、英語教育の教師の問題も解消されるのではないかと思います。今、小学校に英語が導入されると、英語の先生が足りなくて大変です。併設校になれば、そういう問題は解消されるのではないかと思います。

三浦町長 1つの地区に1つの小学校、1つの中学校と、仮にそうだとし
て、併設校とか義務教育学校、小中一貫校とはどう違いますか。

鎌田教育長 私もしっかり調べないと申し上げられないのですが、併設校は
校長1人、教頭2人です。

堀田委員長 そういった場合、転入学が簡単にできなくなるのではないです
か。

鎌田教育長 クラス替えが無いので、人間関係が悪くなり転校した子どもも
います。

校長1人、大潟村は、校長は2人います。ただ、特別教室とか
体育館は1つでいいです。施設面では効率が良いです。理科室も
小学校、中学校一緒に使用しています。図書館も1つあればいい
とか。ランチルームも1つあればいいとか、そういうものもありま
す。そういう学校もあるので、どういう形が良いのかを検討して
もらえればいいと思います。

水野委員 選択肢として、風が入る、入らないがすごく大きいと思ってい
て、保育園、小学校、中学校と1クラスで、永遠に変わらないこ
との風の淀み方がすごく心配です。中にいる人は、子どもが今か
ら八竜中に通います、毎日送れと言われるとゲンナリするし、今
子育ての最中にいる人は反対だと思いますが、一歩外にいる人は
統合に賛成ですよね。社会性をどう広げるかが関心事です。中学
生となると大人に近いので、いつも同じで家族的で良いといえ
ば良いのですが。人間関係の多様性が奪われる危惧があります。

鎌田教育長 一旦何かあった場合、長期的になりますしね。私が常盤にいた
ときは、人間関係が悪くなり、クラス替えは無いし、その子ども
がずっと一緒なので居づらくなって転校したケースがありました。
そういうことはありますね。

水野委員 どこでもそういうことがあると言えばあるのですが。クラ
ス替えはあって欲しいと思います。

堀田委員長 一緒になっても、1学級なのですからものね。

鎌田教育長 中学校も10年経てばありません。この後、学級人数が40人学級から35人学級や30人学級になれば別ですが。

嶋田委員 中学校は、合併してもいつかは1クラスになるとすると、いつかはこれについての話し合いは持たなければならないと思います。

鎌田教育長 途中でも、いつかはまた話し合いが必要になると思います。5年位は、人数は全然変わっていません。この後生まれてくる子どもについての推測はできませんが。

堀田委員長 34年になればグンと減りますね。

鎌田教育長 金岡小学校は、77人に増えています。

佐々木委員 若い夫婦がいるということでしょうか。特に団地が出来たということでも無いですね。

鎌田教育長 湖北小は、町営住宅にどんどん人が入って来ています。今の段階ではそうですが、また変わっていくかもしれません。

平成34年になれば、下岩川小は、入学生が2人になります。途中から変わっていくかもしれませんが。3複式ですね。

堀田委員長 複式は本当に大変です。子どもは少ないですが先生も大変です。

鎌田教育長 地域おこし協力隊に協力してもらえますか、先生として。

畠山次長 先生は駄目です。

鎌田教育長 地域おこし協力隊として学校に来て、下岩川の小学校を盛り上げていくということが可能かなと思いました。

佐々木委員 下岩川に住んでいて、森岳保育園に通わせている人もいますのでね。下岩川の地区に住んでいてです。

堀田委員長 そういう人は、地域にも馴染まないようです。学校関係は全て森岳小ですから。自然とそうなるっていくのです。

三浦町長 下岩川地区は、一生懸命地域に学校を残そうとしている人がいますので、その人達を考えると嶋田委員さんがおっしゃる通り、簡単に学校を無くすということにはならないと思います。

鎌田教育長 下岩川小学校は、34年度になってもまだ25人在籍ですものね。10人台になったら統合とは言えないですね。

佐々木委員 アンケートでも、下岩川の6割を超える世帯が統合という意見です。

三浦町長 小・中学校学級編成基準ですが、これが変わる可能性はありますか。

鎌田教育長 あると思います。

堀田委員長 国が決めています。それによって教諭の人数が決まります。

三浦町長 小学校2年生や3年生を1人で40人を見るのは大変ではないですか。

鎌田教育長 大変です。殆ど学級を分けて授業をしています。教科によって加配があるのでクラスを分けます。また教頭も授業に入っています。本当は学校がたくさんあれば良いのです。山本地区のことを言えば、学校が統合しても1学級です。同じ学年に先生が3人いることになります。

堀田委員長 現状のままだと恵まれていることになります。1人の先生で全部を見なければなりませんから。

嶋田委員 少人数だと先生の目が行き届き、教え方も丁寧にやって下さるので少人数学級が良いですね。学力という点からすると、本当はこの人数が良いのですが。

鎌田教育長 3小学校では、現在、修学旅行に一緒に行っています。行事も一緒にやるようにしています。

三浦町長 今日は再編についての他に『その他』とありますが、だいぶ再編の話がありまして、各地区に1小学校で、中学校はまたどうなるのか。

 水野先生何かございませんか。長信田太鼓も随分ご活躍されているようですが。

水野委員 学校も先生との出会いであったり、友達との出会いであったり、本当に大きく変わる場だと思います。

三浦町長 指導の中で、ご苦労されている点は何ですか。

水野委員 学校でもそうだと思いますが、子ども達がすごく受け身だというか、指示待ちという点です。部活に入ると、先輩が怖いから先に行って何々をしようとか、自然と訓練されますけど、言われればできるけれど、自分からこういう計画でやるぞというのは出てこない。がつがつこちらが指導しなければなりません。

三浦町長 昔は、農家の子ども達は手伝って自然に体で覚えてきたものですが、今は親が農作業をさせない。

堀田委員長 家庭環境も変わってきているから子ども達も育ちようがないのです。親がそれを意識しないと育ちようがありません。

- 水野委員 家庭で起きているだけでなく、学校全体でも起こっていることだと思います。手が掛かる、学校の負担がすごく増えている、先生方の負担が増えています。
- 三浦町長 学力テストで、先生方の負担が増えているという新聞記事がありました。秋田県は、学力テストがトップクラスになったという報道もあります。
- 堀田委員長 家庭環境が変わってきているのに、子ども達の学力を維持しなければならないという、先生方の気持ちというのはすごく重いものがあります。鼻のかみ方から、お箸の持ち方、紐の結び方、たたみ方、片づけ方。教育長さんがお話しされる最低限できなければならないこと、それさえもすることが難しい場合があります。退職して10年になりますが、あれから10年ですから、更に酷くなっているだろうと推測しています。
- 水野委員 先生の負担ということで、懸念しているのがいじめ問題です。
- 三浦町長 子どもの貧困についてはどうですか。福祉課の方でアンケートを取るようですが。
- 鎌田教育長 子どもの数はどんどん減っていますが、支援しなければならない子ども達は増えています。お金が無いのでスポーツは出来ません、そういう場合もあるので、何とかしなければなりません。
- 佐々木委員 練習試合等で子ども達に暇がない。子ども神輿に子どもが来てくれない。色々な大会があつて忙しい。子ども達にとっては試合ということで励みになるのですが、地域から見るとあり過ぎるのかな、という気がしています。ですから、色々なところで負担になっている気がしています。
- 三浦町長 町では今年、18歳まで医療費を無料にしましたが、良かったという声以外はありませんか。
- 堀田委員長 親にとっては有り難いですよね。部活で忙しいと病院にも行けない人もいます。
- 三浦町長 この無料化は、財政係には苦い顔をされます。秋田県内では実施しているところが無いですが、他県では結構実施しているところがあります。今日は、色々な意見を出していただいてありがとうございました。最後に何かございませんか。
- 堀田委員長 冒頭でお話しした防災等の関連ですが、ここは大きな川が流れ

ていますので、学校との連携がうまくいくように、よろしくお願いします。

三浦町長

三種川ですね。先ほどの下岩川地区ですが、下岩川小学校は防災の避難所になっています。そこ以外の所を考えていますが、なかなか適したところがありません。すいらんの館も大雨が降れば危ないです。

また、連携体制のことですが、八竜幼稚園から熊の出没情報の連絡が来なかったという連絡がありました。こういったことも含めまして、子ども達の安全・安心の対策も十分講じて行きたいと考えているところでございます。

予定の時間となりましたので、以上をもちまして、今日の会を閉じたいと思います。

午後 3 時 5 分閉会

会議のてん末・概要に相違ない事を証明するためにここに署名する。

三種町長

署名委員